

令和7年度
大さん橋モニター制度

大さん橋運営へのご提案

モニター属性

	職業	年代	住所	性別
A	会社員	40	神奈川県内	女
B	会社員	40	横浜市内	男
C	会社員	30	横浜市内	男
D	主婦	30	大阪府	女
E	無職	80	横浜市内	男
F	無職	70	神奈川県内	女
G	無職	70	横浜市内	男
H	会社員	40	神奈川県内	男
I	会社員	60	横浜市内	女

活動日程

7月21日（月・祝）	オリエンテーション
10月25日（土）	第1回意見交換会
1月31日（土）	第2回意見交換会
3月14日（土）	第3回意見交換会

はじめに

7月21日の海の日に開催されたオリエンテーションから約1年をかけて、大さん橋の運営の基本となる<認知度の向上><快適性の向上><楽しみの創出>に関して、意見交換を実施してきました。

モニター内で共通していた意見は、「大さん橋の『強み』はその圧倒的なロケーション」だということです。大さん橋は360度のパノラマビューが楽しめ、横浜の観光地を一望できる唯一のスポットです。建物の構造も魅力的で、曲線的なフォルムで内部は柱の無い大空間で来場者を魅了しています。

このように魅力的な大さん橋ではありますが、同時に『弱み（改善点）』があることも事実です。横浜市外の方への認知度が弱く、大さん橋そのものを知らない人も多いのではないのでしょうか。また、横浜市民でもクルーズ船に乗らなくても「入ったら楽しめる大さん橋」を知らない人が多いように思えます。

認知度を上げるためにも（大さん橋は「国際客船ターミナル」であることを前提としつつ）ターゲットをあらためて見直し、そのターゲットにあわせた認知度の向上策やイベントを開催してはいかがでしょうか。

多くの立場の違う方からさまざまな意見を求めることは良いことです。大さん橋スタッフの方々と対話をする時間を多く持つことができ、より一層身近に思えるようになりました。

以下の通りに令和7年度のモニター活動を『ご提案』としてまとめました。今後の大さん橋の運営に役立てただけのことを望みます。

<認知度の向上>

① 情報発信の強化

- ・ロケ地紹介やアニメで使用されたことなどをSNSで発信し、聖地巡礼の活用
- ・鉄道駅（横浜駅、日本大通り駅）へ掲出するなど、インパクトのあるポスターで訴求する。
（例：愛媛県・下灘駅（青春18きっぷのポスターで有名）

② 大さん橋の歴史

- ・大さん橋は横浜港で最も歴史のあるふ頭。歴史についてもっとアピールする。
※具体的には
「AR技術の活用」
「映像コンテンツ」
「パネル展（近隣博物館などのコラボ企画）」

③ ライブカメラ

- ・ライブカメラに新たなアングルや音声を追加し、大さん橋からの風景を広く知ってもらおう。

④ アンケートの収集

- ・アンケートによって来場者の認識を収集し、ターゲット像を可視化する。
具体的には「2次元バーコードなどで手軽に」アンケートに答えてもらう。

<快適性の向上>

① リラクゼーションの向上

- ・常設のイスを増やし、来場者が語れる場所や空間を提供する。
- ・正面入口のフレグランスの香りについて、案内板を掲出する。
- ・コーヒースタンドの誘致、もしくは高規格のコーヒー自動販売機を設置する。

② 館内サインの見直し

- ・館内の案内サインが分かりにくいので見直しをする。

※具体的には

「多言語表記」の充実

「（ロビー内）トイレへの案内サイン」「（外から来た際）エレベーターへの案内サイン」の設置

③ 夏の暑さ対策

- ・猛暑日が連日続くなど、記録的な暑さへの対策をする。

※具体的には

「ミスト送風機」の設置・「船をイメージした日よけ」の設置・「ひんやりシート」の配布

④ 女性への配慮

- ・スマートフォンアプリを使った「生理用ナプキンを受け取れる」ディスペンサーの設置

<楽しみの創出>

- ① 客船お見送りイベント
 - ・ UW旗（航海の安全を祈る）を配布する。
 - ・ 親子で参加できるお見送りグッズ作りのワークショップを開催する。
- ② 新しい来館記念スタンプを制作する。
- ③ 館内スタンプラリーを実施する。（プレゼント付き）
- ④ 神社仏閣でもらえる御朱印の船バージョン「御船印（ごせんいん）」のプロジェクトへの参加
- ⑤ 休憩スペースを拡充し、食事がとれ友人、家族と楽しめるスペースの創出。
- ⑥ 正面入口のガラスに大きなステッカー（カッティングシート）を貼りフォトスポットを設置する。

令和7年度 大さん橋モニター制度

モニターアンケート結果

A:令和8年度からの実施が必要

B:1～2年以内には実施が必要

C:実施が理想的

項目	内容	A	B	C
認知度の向上	駅張りなどのポスターを使った訴求	60%	30%	10%
	ドラマ・アニメの舞台になったことのPR	70%	10%	20%
	近隣ホテルへの施設の紹介	60%	40%	0%
	SNSによるPR	100%	0%	0%
	映像コンテンツによる大さん橋の歴史を可視化	30%	60%	10%
快適の向上	カフェスタンドの設置	30%	60%	10%
	本格コーヒーの自販機	60%	30%	10%
	椅子・テーブルの増設	80%	0%	20%
	船ごとなど、オリジナルスタンプの設置	30%	60%	10%
	夏場のひんやりシートの配布	60%	10%	30%
案内表示	女性トイレの案内（他のトイレの案内）	90%	0%	10%
	駅からの案内表示（日・英）	60%	40%	0%
楽しみの創出	大さん橋オリジナルスタンプの設置	30%	60%	10%
	施設内スタンプラリー	30%	50%	20%

<活動の記録>

オリエンテーション



意見交換会①



意見交換会②



おわりに

大さん橋は安政6年（1859年）の横浜開港後、近代港湾における本格的な港湾施設として明治25年（1892）に着工し、明治27年（1894年）に鉄棧橋として完成しました。以来、「海の玄関口」として130年以上の歴史を誇り、長年、日本の貿易・交通をリードしてきた横浜港の象徴的存在です。客船ターミナルとして入港数は日本トップクラスを誇っており、近年では数多くの国内外のクルーズ船を受入れています。

また、大さん橋の屋上はその愛称の「くじらのせなか」とともに、大さん橋を訪れる市民や観光客からも親しまれております。

今後もミナト町ヨコハマのシンボルとして、市民と港を結ぶ拠点としての役割を果たしてくれることを期待します。

最後に今回のモニター制度のような市民参加型の企画を、今後も継続されることを望みます。